



栗東市文化財保存活用地域計画

概要版

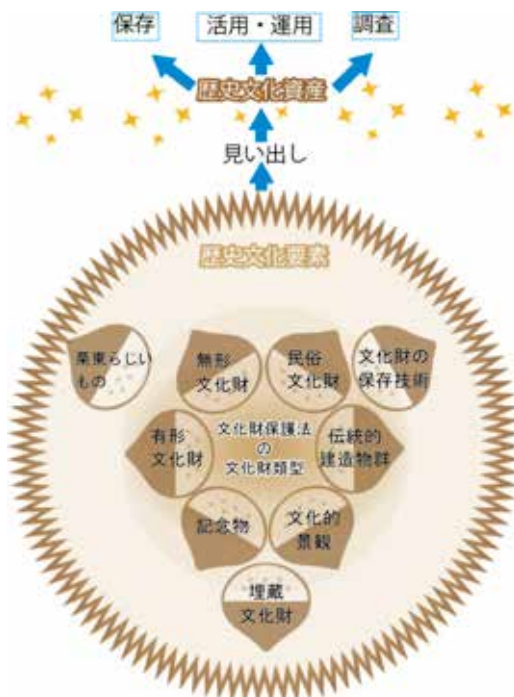
栗東市
RittoCity



計画期間 8年間

令和4年(2022)～令和11年(2029)

計画で用いる用語



●歴史文化

歴史文化とは栗東にそなわっている歴史や文化の事象、さらに栗東独自の風土によって育まれてきた人々の知恵や活動の成果、及びそれらが存在する時間・空間、さらには自然的・地理的な環境をも把握した概念です。歴史文化の特徴は栗東らしさをあらわします。

●歴史文化要素

歴史文化要素とは、文化財保護法にある6類型に埋蔵文化財・文化財の保存技術など、そしてそれらを取りまく栗東らしいものを加え、知恵や活動および先人たちの努力により保存されてきた、栗東の歴史文化を形成する様々な歴史文化の事象・事物(要素)をさします。

●歴史文化資産

歴史文化資産とは、歴史文化要素のなかで活用・運用が可能なものです。すべての歴史文化要素は歴史文化資産となることが期待されます。さらに歴史文化資産として活用・運用するとともに、計画的に調査を行い保存の措置をとっていきます。活用・運用、調査、保存・継承していくなかで、さらなる価値の創出や、あらたな歴史文化要素の発見が可能となり、保存と活用について継続的に好循環をもたらすことができます。

栗東の歴史文化要素の状況

| 類型・種別 | 国指定 | 県指定等 | 市指定 | 国登録 | 合計 | 指定等比率(%) | |
|---------|-------------------|------|-----|-----|--------|----------|------|
| 有形文化財 | 建造物 | 7 | 0 | 14 | 18 | 39 | 27.9 |
| | 絵画 | 0 | 0 | 6 | 0 | 6 | 4.3 |
| | 書跡 | 0 | 1 | 4 | 0 | 5 | 3.6 |
| | 彫刻 | 17 | 8 | 30 | 0 | 55 | 39.3 |
| | 工芸品 | 0 | 2 | 6 | 0 | 8 | 5.7 |
| | 歴史資料 | 0 | 3 | 1 | 0 | 4 | 2.9 |
| 民俗文化財 | 有形民俗文化財 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.0 |
| | 無形民俗文化財(選択) | 1 | 3 | 2 | 0 | 6 | 4.3 |
| 記念物 | 遺跡(史跡) | 2 | 0 | 9 | 0 | 11 | 7.9 |
| | 名勝地(名勝) | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 | 2.1 |
| | 動物、植物、地質鉱物(天然記念物) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.0 |
| | 無形文化財 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.0 |
| | 文化的景観 | 0 | | | | 0 | 0.0 |
| 伝統的建造物群 | 0 | | | | 0 | 0.0 | |
| 選定保存技術 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | |
| 合計 | 28 | 18 | 76 | 18 | 140(3) | 100.0 | |

指定文化財件数(令和4年3月現在)

●未指定の歴史文化要素は1073件把握

栗東は、山間部から平野部まで特色ある自然環境のもとに立地しています。また古代より官道・街道が通過し、さらに琵琶湖に流れ込む河川を介して西国や東国とのつながりを有してきました。このような背景のもと、栗東には豊かな歴史とそれを物語る多くの文化財が残っており、現在の市の歴史文化の基層となっています。

近年の栗東は、人口がいまなお増加傾向にあるものの、山間部を中心にした少子化・高齢化の進行や、人口が急増する平野部での新規市民と従来の市民との歴史文化に対する認識の違いが、歴史文化を担い継承していくうえでの課題となっています。さらには、最近の新型コロナウイルス感染症拡大防止のために地域活動が制限されるなど、新たな問題による地域力の低下も今日的な課題です。

こうした課題解決のためには、栗東にこれまで住んでいる人・新しく住む人・関わる人が、地域の歴史文化を構成する要素に気づき、守っていくことで、栗東の歴史文化をふるさとの資産(たから)としてとらえ、保存・活用・運用していくことが必要です。

『栗東市文化財保存活用地域計画』は、栗東の豊かな歴史文化を舞台として、継続的・発展的な文化財の保存と活用・運用につなげ、地域に、愛着や誇りを持つことができる、魅力あるふるさとづくりを進めることを目的とし、総合的な計画として定めるものです。

歴史文化の特徴

栗東は奥深い山から扇状地に至る変化に富んだ地形の上に繰り広げられた豊かな歴史文化が形成され、かつそれらが感じられる地域です。

特徴1 原始・古代から現代まで交通の結節点

栗東は原始・古代から現代に至るまで、畿内と東国の結節点にあたり、東山道(中山道)と東海道の分岐地点に近接する重要な場所です。



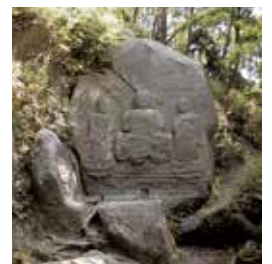
笠形木製品
(椿山古墳出土)

テーマⅠ 材が織りなす繁栄

多様な資源と技術の往来を基盤として、原始・古代の集落が栄えました。

特徴2 奥深い山から扇状地まで、変化に富んだ地形に展開する豊かな歴史文化

栗東の南部は、湖南アルプスともいわれる600m級の山々が連なる山間部です。北部は野洲川が主として形成する扇状地と氾濫原が広がる平野部です。



狛坂磨崖仏

テーマⅡ 山の祈りと業(なりわい)

金勝山中では早くから仏教文化が開花。平安時代には金勝寺が伽藍を整備。山間部の集落では景観や祭礼が受け継がれます。



大角氏庭園

テーマⅢ まじわり・にぎわい・結び

東山道(中山道)・東海道が栗東を通過。多様なものや情報が行き交い戦乱にも巻き込まれました。

テーマⅣ 川と水が紡ぐ村々

野洲川扇状地の、水と耕作地、集落のかかわりは、大宝神社祭礼にも残されます。天井川は災害史を物語ります。



菌神社本殿

【将来像】

生活の基盤をなし、心の風景を彩る歴史文化を地域で守り、
みんなのふるさとを目指します。



課題

調査に関する課題

- 歴史文化要素の再確認・掘り起こし不足
- 市民主体の調査との連携・支援不足
- 計画的な埋蔵文化財調査の取り組み不足
- 栗東らしいもの調査が不十分

保存・継承に関する課題

- 担い手不足
- 市民との協働体制が不十分
- 埋蔵文化財資料の収蔵管理の手段・体制の逼迫
- 歴史文化要素の保管管理の手段・体制の逼迫

活用と人づくりに関する課題

- 地域コミュニティの劣化
- 市内・市外への情報発信不足
- 人材育成不足
- 市民意識のデータ不足
- 埋蔵文化財資料の活用が不十分
- 学校との連携不足



方針

栗東の歴史文化を形成する全ての事象・事物（歴史文化要素）は価値を見出すことにより、歴史文化資産として【活用・運用】できるようになります。歴史文化要素の【見出し】から、【調査】【保存・継承】【活用・運用】の好循環は、栗東に住む人や関連する多くの人のふるさとづくりに活かされることが期待されます。



方針1 調査

歴史文化要素を歴史文化資産として活用・運用するため、価値を見出し顕在化することが必要。計画的に調査を進めるとともに市民の主体的な活動を支援します。

方針2 保存・継承

市民一人一人が歴史文化要素を知り保存していくことで、多くの要素を資産として蓄えることができます。こうした好循環により、「みんなのふるさと」の継承につなげます。

方針3 活用・運用

歴史文化資産を活用・運用することで、新たな歴史文化要素の気づきや発見につながります。持続可能な活用・運用が地域への誇りを育み、みんなのふるさとづくりにつなげます。



措置

【措置1】

埋蔵文化財緊急調査の対応と詳細調査

これまで調査された膨大な調査成果のデータ化を図ります。また岡遺跡(栗太郡衙)など特に重要であるものについては現地保存をはかりつつ、本質的な価値を見出すことを目的として計画的な調査を実施します。

- 取組主体：地域、専門家、行政、調査機関（栗東市スポーツ協会）
- 計画期間：R4～11

【措置2】

地域における歴史文化要素の維持・保存

旧和中散本舗・名勝大角氏庭園は保存・継承の課題解決のため保存活用計画の策定に着手します。また関連文化財群の設定を行い、指定、未指定に関わらず歴史文化要素を一体的に保存・継承します。

- 取組主体：地域、専門家、行政、調査機関（栗東市スポーツ協会）
- 計画期間：R4～11

【措置3】

市内へのアピール

歴史文化資産を活用・運用していくためパンフレットや看板などで周遊型観光ルートの整備を行います。また、関連文化財群に基づく講演会や、定期的な市内の見学ツアーを開催します。

- 取組主体：地域、専門家、行政、調査機関（栗東市スポーツ協会）
- 計画期間：R4～11



岡遺跡調査の状況（昭和63年）



観音寺の景観



ボランティア観光ガイド



椿山古墳での野点

歴史文化要素の一体的・総合的な保存と活用 (関連文化財群)

歴史文化の特徴① テーマⅠ 材が織りなす繁栄

I - A 栗太の小国の誕生

弥生時代、下鈎遺跡や伊勢遺跡では大型建物を中心とする拠点的な集落が生まれます。下鈎遺跡では青銅製品や赤色顔料の生産を行っていたことがわかっています。



I - B 躍動する古代豪族

古墳時代、盛んな物流を背景に玉作や鍛冶などを行うほか、交流は朝鮮半島に及びました。安養寺山麓には、新開古墳や椿山古墳など近江有数の古墳群が築造されました。



I - C 古代近江の要

古代、栗太郡の山林資源は宮都や寺院の建設に不可欠でした。栗太郡衙岡遺跡は地域支配の拠点となりました。小槻大社は山林資源を掌握した小槻氏の祖神を祀ります。



課題

- ・古墳の調査不足
- ・栗太郡衙岡遺跡の調査未着手
- ・個人所有の古墳の維持困難
- ・出土文化財センター老朽化 など

- ・栗太郡衙岡遺跡の価値を明らかにする調査
- ・出土文化財センターの整備 など

措置の例

- ・下戸山古墳、椿山古墳などの調査
- ・栗太郡衙岡遺跡の範囲確認調査
- ・地山古墳環境整備
- ・出土文化財センターの空調機など修繕



日向山古墳

方針

- ・古墳の調査
- ・古墳の整備

歴史文化の特徴② テーマⅡ 山の祈りと業（なりわい）

Ⅱ - A 金勝の神仏の風

平安時代、幽玄な山間部で金勝寺が興福寺の僧願安により整備されます。さらに天台宗の影響を受け、金勝谷を中心に地方色豊かな彫刻文化が展開。また、室町時代、湖南における浄土教の中心となりました。

Ⅱ - B 山の暮らしと神まつり

金勝地域の集落は、山と関係が深い生活を送る特色ある景観を残しています。年頭の行事である山の神やオコナイ、風流踊りの一種である太鼓踊りが伝わっています。

課題

- ・歴史文化要素の維持と担い手不足
- ・空き家の増加、風水害・獣害リスク など

措置の例

- ・大野神社摂社本殿屋根葺替
- ・博物館の整備
- ・空き家バンクを運用

方針

- ・建造物の修理
- ・緊急避難場所としての博物館の収蔵機能の充実
- ・空き家対策の実施 など



金勝寺



歴史文化要素を、歴史的な性格や位置づけに応じて、周辺の環境を舞台に一体的・総合的にとらえたものを関連文化財群とし、歴史文化の特徴から導いた4つのテーマに応じ、10の関連文化財群（ストーリー）を設定しました。

歴史文化の特徴①
テーマⅢ
まじわり・にぎわい・結び

Ⅲ－A さまざまな争乱

室町時代、将軍足利義尚は、鈎の里に陣をおき「鈎御所」としてにぎわいをみせました。戦国時代、街道沿いは一向一揆の拠点となり、それに対し多喜山城が築られました。



Ⅲ－B 東海道と中山道

江戸時代、東海道と中山道が通り、人や物、文化が行きかい、まじわり、にぎわいました。東海道では梅ノ木立場の和中散や目川立場の田楽が名物になりました。交通網を活かして産業が発展し辻鋳物師が全国で活躍しました。



◀大角家製菓機械

課題

- ・大角家住宅、旧和中散本舗内建造物の壁や屋根などの劣化
- ・街道に関する歴史文化要素の情報発信不足など

方針

- ・大角家屋根修繕
- ・製菓機械の修理
- ・団体の支援
- ・旧和中散本舗内建造物の修理

措置の例

- ・東海道をめぐる観光ルートの整備、活用
- ・旧和中散本舗特別公開
- ・旧和中散本舗のトイレ、便益施設の整備
- ・街道沿いの歴史文化を発信する市民団体の育成支援

Ⅳ－A 水でつながる大宝神社圏

大宝神社は疫病を鎮める牛頭天王を祭神とし、広範な信仰圏をもちました。秋の相撲（そうもく）祭は水利権の争いを子ども相撲で解決したとの由来があります。



Ⅳ－B 野洲川と耕地

栗東の北部の村々では野洲川から引かれた用水が、各村々をつなぎながら耕地を潤しました。川とともに生きた人々の暮らしは三輪神社や菌神社祭礼の神饌からもうかがえます。

Ⅳ－C 金勝川と葉山川

金勝山系は大部分が風化しやすい花崗岩質です。金勝地域では山崩れなどの災害が頻発しました。金勝川や葉山川では流出した土砂を盛り上げ中流域より天井川となります。



歴史文化の特徴②
テーマⅣ
川と水が紡ぐ村々



課題

- ・大宝神社祭礼調査未実施
- ・食文化の記録化が未実施
- ・天井川の調査が未実施 など

方針

- ・大宝神社例大祭の記録化
- ・地域に残る民俗行事や食文化の把握
- ・災害に関する資料の掘り起こし など

措置の例

- ・大宝神社総合調査
- ・地域伝統食の記録
- ・小地域展での古文書調査

防災・防犯

課題

- 台風や局地的豪雨による水害や土砂災害
- 地震などによる歴史的建造物への被害
- 未指定文化財の災害への備え
- リスクマネジメントと訓練
- 緊急避難先としての博物館収蔵スペース逼迫
- 感染対策による地域活動の制限

方針

- 歴史文化要素のリスト化、危険箇所確認
- 歴史文化要素の特性に応じた防災設備の検討・整備などの防火対策
- 防災マニュアル作成とパトロール
- コアになる歴史文化要素の防災計画
- 防災訓練、避難訓練
- 博物館での受け入れ態勢の充実
- レスキュー体制の検討
- 無形文化財への支援

措置の例

- 災害時に対応できる歴史文化要素把握事業
- 歴史文化要素の周辺整備事業(小槻大社・吉祥寺・菌神社)
- 指定文化財防災設備の点検と改修・更新
- 指定文化財建造物・史跡内建造物の防災対策
- 歴史文化要素の防災・防犯体制の整備
- 歴史文化要素のパトロール実施
- 民俗文化財の記録化と継承



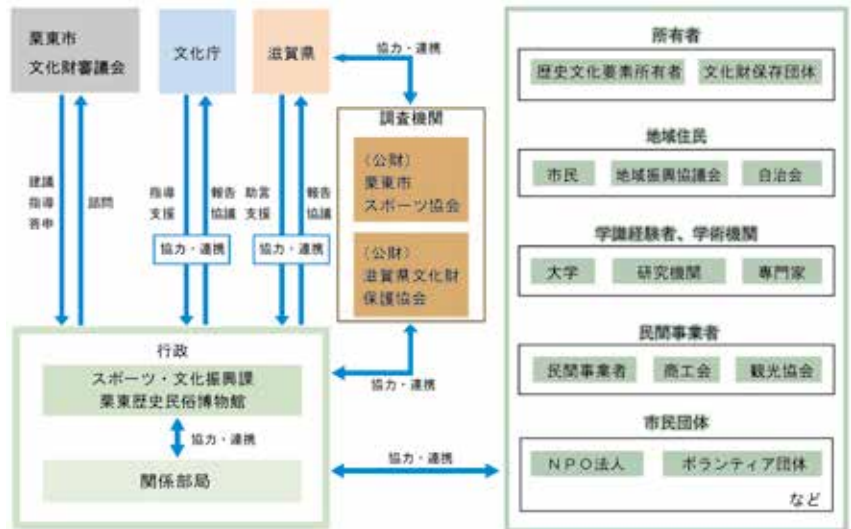
推進体制



計画を推進するために、所有者や地域住民、学識経験者、学術機関、民間事業者、市民団体と協力・連携していきます。

埋蔵文化財の発掘調査などについては(公財)栗東市スポーツ協会や(公財)滋賀県文化財保護協会と協力・連携しながら進めていきます。

旧栗太郡や防災、旧街道、遺跡などの関連などで関わりが深い、大津市、草津市、湖南市、野洲市、守山市とはそれぞれ連携を図っていきます。



栗東市文化財保存活用地域計画 概要版

文化庁認定：令和4年（2022）7月22日

発行年月日：令和4年（2022）11月22日

発行：栗東市

編集：栗東市教育委員会スポーツ・文化振興課



令和2～4年度文化庁文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)